

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2262号 2015年06月01日（月曜日）

《 buy the rumor 》

それは“噂”であり“観測”であるが故に、対象であるドルを買い上げるといふ動きになっていると思う。実際に「利上げ」が始まれば、その幅の小ささとペースの遅さ故に「sell the fact」になる可能性もあると思うが、今はまだ相場が若い。

先週の号の冒頭にも書きましたが、「I think it will be appropriate at some point this year to take the initial step to raise the federal funds rate target and begin the process of normalizing monetary policy.」とのイエレン議長のプロビデンス商工会議所での先々週金曜日の発言は、「中央銀行家をしている彼女の“願望”であり、一種の“直感”、または“危機感”なんだろうと思う。“願望”だから、その通りに行かないケースもある。つまり年内の利上げは「やはり無理だった」という結果になる可能性も20%程度はある、というのが筆者の見方だし、利上げの幅や第一回の利上げからの「その後の利上げのペース」は小幅、かつ相当間隔を開けたものになる可能性が高いと思う。

それ故に、対ユーロというよりは対円や対オセアニア通貨で進む「ドル高」、そしてその継続見通しはやや行き過ぎとの印象もする。故に日米有力政治家のドル高を警告する一言で大きく崩れる危険性をもったものだと思うが、ポイントは「それがない」という点だ。先週はG7がドイツで開かれた。しかしドル高に警鐘を鳴らすような発言は、当事国の米国からも聞こえなかった。

そのG7について言うと、「何を話し合ったのか、対策が出たのか」も分からない会合で、慣習に従って「全員集合写真」は撮ったものの、「会議の中味」を問う記事もあまり書かれることがないままに終わった。筆者の印象では先週のG7は「過去のどのG7よりも、“何かが出来るといふ予感”もせず、世界経済の為に有為なことが実際に出来なかったG7」だったと言えると思う。

もともと「定期的に会うことが重要」という会議だから、あの手の国際会議の王道かも知れないが、過去のG7の威力を知っている身には「寂寥」を感じるものだった。「開催国であるドイツは、声明などの“成果物”よりも政策当局者の意見交換を重視した」と日経ヴェリタスに書いてあるが、改めて今調べたが三日間もやったG7だが、確かに声明などの“成果物”をネットでは見つけられなかった。

実は、注目される発言も少なかった。ドイツに行く前に麻生財務相が紙を見ながら読み上げた「(最近のドル・円相場には) 荒い動きがある」との発言（よって財務省が用意したあ

の時点での財務相の公式な立場) は、ドイツでは封じられた。ということは、財務省は今の急速に進むドル高・円安を多少は気にしているが、「止めるために何かする」という空気ではないということだ。麻生大臣が「(G7 では) 為替に関する議論はなかった」と言えば、議長を務めたドイツのショイブレ財務相も総括記者会見で為替問題を口にしなかった。詰まるところ何も合意するようなことはなかったということだと思う。

為替を話し合わなかった、議論の対象としなかったとなれば三日間も何をしていたのか。当然不満足な世界経済の現状やギリシャ問題に関して議論はしたはずだ。しかし発表するようなことは「何も合意できなかった」「合意しても外に出すことは控えた」ということだったような気がする。筆者の見方だと、今のアメリカはドル高を別に歓迎してはいないが、だからといって「ひっくり返そう」と思うほどの問題ではない。そういう意味での“容認”だと思う。他を見ると、再び歓迎できるユーロ安になった欧州、物価対策からも急な円高が困る日本という図式。「敢えてブレーキを踏むこともない」という為替市場の動きだったのだろう。

ということは、当局の「曖昧な態度」を試すかのようなドル高は、脆弱性を孕みながら進む可能性があるということだ。しかしドルも高くなればなるほど、あらゆる相場がそうであるように、脆弱性が高まる。その瀬踏みが続くマーケットだということだ。今週は「アメリカ経済は利上げに向かえるほど本当に強いのか」を見る上で一つの目安となる米5月の雇用統計が発表される。いよいよ「寒波やストの影響がまったくない」数字が出はじめるので、これはマーケットから関心を置かれることだろう。

《 an accident 》

そのG7に出席していたルー財務長官が一番気にしていたのは「事故」だ。これはギリシャ問題に関連する。筆者もそう思うが、欧州はギリシャの緊縮策を巡る融資を「する、しない」で「火中の栗」を投げ合う遊び(かなり真剣ではあるが)をしているように見えるが、「そんなことをしていると“事故”が起きますよ。それが懸念です」とアメリカの財務長官。この発言に関するFTの記事の見出しは「US warns of Greek exit ‘accident’ as bank outflows soar」となっている。

それはそれで、これだけ交渉が長引くと「互いの面子」が重要になったりして、その交渉のどこかで「ギリシャのユーロ圏脱退」に繋がりがかねない事故、そしてそれが波及した国際金融市場の事故が起きる危険性がある、というのがルー財務長官の発言趣旨だろう。この“事故”を気にしてG7が声明などの成果物を敢えて出すことに積極的ではなかった可能性もある。G7全体がギリシャに圧力をかけているような印象を避けたのかも知れない。

しかし現実動く。FTの見出しにある「as bank outflows soar」というのが重要だ。つまりギリシャから預金が流出しているし、かつそれが「急激に増えている」と読める。それはそうだろう。仮にギリシャがユーロを離脱し、ドラクマか何か知らないが新通貨となればそれは圧倒的にユーロより弱い購買力しない。「今のうちにユーロ預金を国外に動かしてお

きたい」というギリシャ人は多いに違いない。

このFTの記事には、「It also emerged on Friday that deposit outflows from Greek banks accelerated this week, with about €800m withdrawn on Wednesday and Thursday alone, according to two senior Athens bankers.」という文章も見える。これはさすがに“事故”が起きてもおかしくないレベルの資金流出だ。なによりもギリシャの銀行の先行きが危ない。そうなればトロイカとギリシャの交渉云々ではなく、ギリシャの銀行の健全性への懸念故に、ギリシャからの資金流出が急増する危険性がある。ルー財務長官としては、「事態をもてあそぶな。早く当事国で解決策を」と思っているのだろう。

しかし5日に大きな返済期限が一つ来るし、6月末にはそもそも「延長期限」が来るというのに、ギリシャとトロイカの話し合いは立場がかけ離れたままだ。ティプラス首相は預金流出に歯止めをかけたいのだと思うが、「合意は近い」と盛んに言っている。しかしEU、トロイカサイドはあくまでギリシャに「年金の減額」などを飲ませたいように見える。今週も危険なゲーム、“事故”が起きてもおかしくない展開が続く。

- - - - -

今週の主な予定は以下の通り。

06月01日（月曜日）	1～3月法人企業統計 中国5月PMI指数 オーストラリア4月住宅着工許可件数 5月新車販売 4月末税収実績 5月大手百貨店売上高速報 独5月消費者物価 米4月個人消費支出 米5月製造業PMI 米5月ISM製造業景況感指数 米4月建設支出 東証が「コーポレートガバナンス・コード」適用開始
06月02日（火曜日）	5月マネタリーベース 4月毎月勤労統計 新発10年物国債入札 オーストラリア準備銀行の定例理事会 韓国5月消費者物価 インド準備銀行が政策金利を発表 ドイツ5月失業率 ユーロ圏5月消費者物価 米4月製造業受注

米5月新車販売
休場=インドネシア
06月03日(水曜日) オーストラリア1~3月期GDP
1日時点の給油所の石油製品価格
ユーロ圏4月失業率
ユーロ圏4月小売売上高
欧州中央銀行理事会
欧州中央銀行のドラギ総裁が会見
ポーランド中銀が政策金利を発表
米5月ADP雇用レポート
米4月貿易収支
米5月ISM非製造業景況感指数
米ベージュブック
ブラジル中銀が金融政策を発表

5月輸入車販売
06月04日(木曜日) 5月輸入車販売
オーストラリア4月貿易収支
オーストラリア4月小売売上高
韓国1~3月期GDP速報値
5月新車販売ランキング
英イングランド銀金融政策委員会の結果発表
米新規失業保険申請件数
米1~3月期労働生産性指数改定値

06月05日(金曜日) 5月上中旬貿易統計
4月景気動向指数
ユーロ圏1~3月期GDP改定値
米5月雇用統計
OPEC定例総会

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。冗談ではなく暑かった。この週末は都内をあちこち移動していましたが、汗だく。朝晩はまだ涼しいとは言え、「早くも夏到来」という印象。このまま暑くなるということはないでしょう。梅雨もありますし。しかしちょっと異常かなと思う土日でした。

ところで先週は、「これは結構凄い、というか考えようによっては危ない」と思うアプリ

を使い始めたので、それを紹介します。その名は「Moves」です。公式ページの説明は、「Movesは、あなたの毎日の運動、通勤、重要な場所で過ごした時間を自動的に追跡記録します。ただスマートフォンをポケットやバッグに入れて運ぶだけです」というもの。ある方から教わってから使っていますが、自分の移動軌跡がすべて残るという優れもので、便利です。歩いたり走った部分は地図上に薄緑の帯で、車など足を使わない移動は薄い黒で奇跡が描かれる。歩いている場合は「徒歩」と出るし、走った部分は「走る」と出る。

これは私のように歩きとランを体調に合わせて組み合わせている人間にとっては、あとで「どういう配分だったのか」が明確になる。また数日もすると結構忘れてしまう自分の移動軌跡を思い起こせるという意味でも便利です。「交通機関」と出る分は自分で運転した車なのか、タクシーなのか、それとも他の交通手段なのかは思い出さないといけませんが、「一日の間の自分の軌跡」がほぼ完璧に記録・想起できる、という意味ではナイスです。

しかし考えようによっては逆に「記録が残ってしまう」という現実もあります。それが必要な使用方法もあると思いますが（例えば監視必要者への使用、または子どもの行動を見るための使用）、それ以外でもいろいろな好ましくない使用方法も考えられる。もっともここまで作ったのなら、「これをアップルウォッチに入れてくれないかな」とも思う。加えて「運動量を計る各種アプリとマージして欲しい」とも思います。最近知ったアプリの中ではちょっと面白いし、直ぐにメリットを享受できる、という意味で紹介しました。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》